

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2016年4月21日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

4月から 高齢者の医療費が無料に 東川町

アベ政権は、医療費適正化を目的に、75歳以上の高齢者の窓口負担を2倍にしようとしています。北海道の中心に位置する東川町は、4月から高齢者の窓口負担の無料化をはじめ、住民から喜ばれています。

東川町は、人口は約8千人で、大雪山の麓にあり写真の町としても有名です。



75歳以上の高齢者 町立診療所の外来医療費が無料に

東川町は、高齢者が町立診療所（町内唯一の医療機関）の外来にかかった時の窓口負担分を全額助成します。

対象は、町民で75歳以上の高齢者と65歳以上の障害者（後期高齢者医療保険の被保険者）で1割負担の人です。対象者は約1300人（町民の16%）。3年間のモデル事業。財源は人口増加による歳入増です。



『老後破産』にショック 町の先人の重症化防ぎ、要介護の進行を抑制したい 松岡市郎町長

松岡町長からお聞きしました。「NHKが報道してまとめた『老後破産』を読んでショックを受けました。大変な暮らしをしている高齢者が、この日本に本当にいるんだと驚きました。考えてみると、東川町の高齢者の多くは農家です。年金は国民年金で月6万円くらい。土地を売ったお金を取り崩して生活していても、それがなくなると年金だけで生活しなければなりません。もしかしたら、お金がなくて診療所にかかれぬ人もいられるかもしれません。介護制度も大きく見直されようとしています。今日の町の基盤を築かれた先人たちの感謝とともに、高齢者が早期発見、治療によって、重症化の防止につながり、要介護の進行抑制にもつながると思いました。医療や介護にどの程度の効果があるか分かりませんが、数年間かけて調査したいと考えています」（助成の対象を拡大する可能性も示唆しました）

東川町は通院費の助成もしています。詳しくは次号の『笑顔でくらしたい』で紹介します。

手持ち金わずか 生活できない SOSなんでも電話相談会

格差と貧困が広がっています。4月19日、雇用・くらし・SOSネットワーク北海道が、「SOSなんでも電話無料相談会」を行いました。生活相談は7件で、深刻な相談も寄せられました。



病気になり仕事ができなくなり、蓄えがなくなり手持ち金が4000円。家賃も払えず生活できないという40代の女性から相談があり、生活保護申請を考えることになりました。また、「生活保護が廃止になったが、再度申請することは可能か」「知人が入院中だが生活保護を利用できないか」「難病のため仕事ができず、役所では相談に乗ってくれなかった」など、生活保護申請についての相談が寄せられました。

また、生活保護利用者から、子どもが高校へ入学することになったが入学費用がまかなえず、保護課に相談したが入学準備金等が断られたとの相談がありました。相談員が同行し、保護課が入学準備金は支給対象であることを認め、約7万円支給されました。

相談には、弁護士や司法書士、医療や労働・生活相談員などの専門家が応じました。

5月28日（土）は、北海道社保協総会 14時～ かでの2.7 710会議室
記念講演は さっぽろの子ども・若者の今 『さっぽろ 子ども・若者白書』づくりを通して
柳 憲一さん（さっぽろ 子ども・若者白書2016をつくる会 編集局長）